

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300735		
法人名	医療法人 木水会		
事業所名	グループホーム八州苑いわふね		
所在地	栃木県栃木市岩舟町静1281-1		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 11 月 6 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 2 年 9 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

様々な事業所からなる同法人の特性を活かして、介護老人保健施設や看護小規模多機能などと連携し、情報を共有することで入居者の状況、ニーズに合わせたスムーズな入居、退居の支援を行い、2週間に1回の往診を行うことで適切な医療の提供に取り組んでいる。また、納涼祭やクリスマス会といった行事を通じ、家族や近隣住民との交流にも力を注いでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は医療法人で介護老人保健施設や各種介護施設を開設している。「グループホーム八州苑いわふね」の名称は理事表・施設長が名付けた。平成15年にA館、平成16年にB館が開設され、隣接にはデイサービスいわふねがあり、利用者の状況やニーズに合わせた支援を行っている。月2回の往診と24時間対応可能な医療体制が整っており、安心して生活することができるよう取り組んでいる。法人で行う納涼祭やクリスマス会等のイベントには、家族や近隣住民の参加があり交流が行われている。コロナウィルスの影響で、大きなイベントは中止になり地域住民との交流ができない状況である。その中で、利用者の生活では、ドライブしたり外食ができない分お取り寄せで食事を楽しんだり、出来る事を工夫した支援を行っている。自己評価は全職員にアンケートをとり管理者が作成した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念と行動指針を掲示し、理念を共有している。その他に年度ごとに目標を掲げている。	基本理念は事務所に掲示してある。「ゆっくり・楽しく・いっしょに」を行動指針として実践に取り組んでいる。毎月の定例会議で話し合いを設け理念を共有している。年度毎の目標として人混みのない所への外出を計画している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、毎年変わる自治会長に広報誌を届けていただき情報交換したり、民生委員に運営推進会議に参加していただき連絡を取り合ったりしている。	自治会に加入し、回覧板や、子ども110番となり地域の一人としてつながりをもっている。自治会長に声掛けし行事の時には来所してもらっている。避難訓練の時に地域住民の参加もあり見守りしてもらっている。花センターから季節の花を届けてくれたり、近隣の方が菊の花や鬼ゆずを届けてくれたりと交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの行事や避難訓練等に近隣住民への参加を促し、その際、見学希望者がいれば入居に関係なく丁寧な説明をしたりと身近な存在となるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員などが出席し、2ヶ月に1回取り組みを写真を交え報告している。そこでの意見を支援に活かしている。	2ヶ月毎に利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター職員などの参加は書面会議で行い、利用者の状況報告や季節の豪雨被害等の取り組み状況を話し合い、そこで出た意見をサービス向上に活かしている。参加できない家族には書面で報告している。消防署・駐在所にも参加依頼をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に地域包括支援センター職員に入居者の状況を伝えている。また相談を重ね成年後見人などの支援ができるように取り組んでいる。	市との連絡は包括支援センターが間に入っており、職員に事業所の状況やサービスの取り組みを伝えながら成年後見人の支援等、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目の前の通りは車の往来が多いため家族に説明し、玄関は施錠しているがホールの窓は日中解放している。また勉強会にて身体拘束についての認識を深め、外に出る時間をつくるなどの工夫をしている。また、言葉による身体拘束にも日々気をつけている。	法人で年4回勉強会を設けており、サービスにおける禁止行為を理解して法人全体で身体拘束をしないケアに努めている。また、言葉による拘束にも会議で話し合い、日頃から職員間で注意しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は道路状況により施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会で毎回取り上げるようにし、一人ひとりが気をつけて入居者と接するよう話し合いをしている。またアンケートを用いて自分の行動を考える機会を設けている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて制度の内容について学び、必要と思われる入居者がいた場合には、地域包括支援センター職員に相談し、成年後見人制度が利用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約の際は入居者の状態から起こりうる事態を想定し、入居者や家族に対し、納得していただけるよう丁寧な説明を行っている。また退居後のフォローなどにも努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話にて連絡する時や面会の際、話しやすい雰囲気であることを心がけている。また苦情相談窓口についてお知らせし、意見、要望に応えられるよう取り組んでいる。	コロナ禍で面会を控えているので電話で話すことが多い、その際意見、要望などを聞くようにしている。利用者が家族等と話したいときには電話をかけて話してもらっている。そこで出た要望等に応えられるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会で各々が自由に発言できるように配慮しているとともに、業務変更や新しい試みを行う場合、一人ひとりからアンケートを取り、様々な意見を汲み取るようにしている。	定例会議では、職員の意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている為、時間オーバーになることもある。業務変更等、設題を決めてアンケートをとりまとめ全員に見せて、各々の意見をくみ取れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、それぞれの勤務状況を認識し、能力を活かしたやりがいのある仕事ができるようにしている。また資格取得者には努力を認め、表彰している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体、グループホーム単体と定期的に研修や勉強会を行っている。実践者研修など外部の研修を受ける機会もあり、そこで得た知識を反映できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修などで交流を図り、他事業所が抱える問題とそれに対する取り組みを参考にし、サービスの向上に努めている。また、他事業者と合同で研修を行う機会もあり、交流を図っている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族や関わった介護職員らの話を聞き、本人の立場になって要望に応えられるようにしている。また入居前に気持ちがあはれるよう施設の見学をすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や連絡を重ね、家族の思いや不安を汲み取るようにしている。些細なことでも話をし、信頼構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状態、要望を総合的に考え、どのような形が最もふさわしいのか、他のサービス利用も含め、柔軟な対応ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物などの作業を行っていただけるような声かけをしたり、おやつ作り、園芸の際にアドバイスや体験談を聞いたり工夫してコミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診をお願いしたり、必要な物品などを持って来ていただいたり要所で家族の協力を得ている。また入居者が不穏のとき、電話をする場合もあり、入居することで疎遠にならないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人で他のサービスを利用している友人がいれば面会できるようにしたり、希望する場所に車でお連れしたりと築いてこられた関係が保てるようにしている。	同法人のデイサービスや老人保健施設を利用している友人と面会してふれあいをもったり、近所の知り合いが来たこともある。今はコロナ禍で難しくなっている。理・美容は2ヶ月毎に訪問サービスを利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や特徴を考慮し、座席を変えるなど話しやすいようにしたり、トラブルが生じないようにしている。また職員がきっかけをつくって入居者同士で会話が生まれるよう努めている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後同法人を利用している方は、面会などの交流を続けている。また亡くなられた場合、家族の精神面の負担を考慮し、少しでも不安が軽減するような対応を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常よく見られる言動にとらわれず、わずかな表情にも注目し、具体的な内容を記録することで全職員がより深く意向の把握ができるよう取り組んでいる。	一人ひとりの思いや意向を聞いたり、日頃から表情に注意してケアしたり、ジェスチャー等で理解できるように把握に努めている。普段の表情の違いや体調の変化、不機嫌等、具体的な内容を記録し全職員が意向の把握ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会などで本人や家族から話を聞き、習慣や考え方を知るようにしている。またサービス利用の過去があれば携わった人からも話を聞き、支援の参考にしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細なことでもいつもと違った様子が見られた場合には、経緯がわかるように記録に残し、職員同士共有している。また、定例会を利用し状況の把握と意見交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、介護職員、医師が本人の思いを尊重し、より良いケアプランとなるよう様々な意見を融合させている。また状況に応じて変更や調整を行っている。	介護計画は、モニタリングチャートで3か月から6ヶ月毎に見直しをして、担当介護職員を中心に本人や家族から意見を聞いたり医師からアドバイスを受けて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄などそれぞれに記録を分け、グラフとして変化がわかるようになっている。職員はこれらを踏まえて対応し、ケアプラン作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて同法人内の他事業所から医療行為の協力を得たり、理学療法士の指導で機能訓練を取り入れたりと、柔軟な支援が行えるようにしている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩で近くのグランドやお店に行ったり、図書館で本やCDを借りてきたりと、様々な場面で利用し、生活に潤いがあるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の医師が定期的に往診をしているが、本人や家族が他の医療機関の受診を希望すれば可能である。同法人においても症状によって各専門医が診察するなど適切な医療が提供できるよう配慮している。	本人や家族等の希望を大切にしており全員協力医の受診となっている。同法人の泌尿器科・循環器科等の専門医に受診している利用者もいる。他医療機関受診の時は家族協力で現状書いたメモを渡し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が直接介護に関わることで入居者のわずかな変化を捉え、より適切な対応ができるように努めている。また同法人の医院の看護師にもこまめに相談し、緊急時に迅速な指示が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特定の病院と連携し、緊急搬送の際の受け入れがスムーズに進みやすくなっている。また入院先の病院や家族と連絡を取り合い、状態を把握し、退院後も対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、医師が家族と面談し、延命治療について意思を確認している。また重度化した場合には家族に考えられることを伝え、十分に話し合い、方針を立てている。看取りに備え、エンゼルケアの物品を用意し、対応できるようにもなっている。	入居時に医師が家族等と面談し、終末期の在り方について確認している。また、重度化した場合には家族に考えられることを伝えながら話し合い、方針を共有している。看取りも経験しており、急変時の対応も出来るように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した際、対応できるようマニュアルを作成し、医師や看護師と連絡が取れるようになっている。また救急隊員より、心肺蘇生法などの指導を直接受ける機会もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる事態を想定し、消防訓練を行っている。定期的に消防職員が立ち会い、助言を仰いでいる。また水害などのときに協力が得られるよう地域住民に自治会を通じ広報活動をすることもある。	消防署立会いの訓練と夜間想定した避難訓練を年2回行っている。その他に通報訓練・消火訓練を年4回行っている。民生委員を通して声掛けし、地域住民も参加している。職員連絡網や家族に対する避難場所の周知もできており、備蓄もしている。	自主避難訓練を年4回しているが、想定外の災害が多いので、夜間想定した訓練や避難できる方法を全職員が熟知して行えるように、パニックにならないよう不安が減少するようなマニュアル等の整備に期待したい。

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安全に配慮しつつ、職員の都合で入居者の行動を制限しないよう努めている。また自尊心を傷つせず、残存機能を活かせるような支援を心がけている。	居室に入室するときはノックや声かけしたり、トイレや入浴室の扉は閉めるなどプライバシーの確保に努めている。失敗したときには自尊心を損ねない言葉かけや対応をしている。話しかけるときは目線を合わせて「さん」付で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも選択肢を設け、自己決定の意欲につなげている。また気持ちをうまく表せない入居者に対し、服選びなどの際、声かけを工夫し、導き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の入居者への影響や生活のリズムにも配慮しながら、従来のやり方にこだわらず、職員同士協力し合い、できるだけ希望に応えられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がフォローし、化粧や身だしなみへの関心が失われないようにしている。また定期的に理容師が訪問し、プロの手によるおしゃれを楽しむことができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞の広告を見て、食べたいものを伺ったり、レクリエーションの一環としておやつなどをつくる機会がある。また、時にはバイキング形式や季節を感じる献立にして、趣向を変えた食事にもしている。	食材は外部から取り寄せ、職員は利用者の状況を把握し、1ヶ月分の献立選び調理している。コロナ禍で毎月実施していた外食会はできていないが、おやつは月に何度か利用者と一緒に作り、パンバイキングや行事食、お取り寄せの食事などで食の楽しみや季節を感じられるよう支援している。利用者はテーブル拭きや片付けなどを率先して行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量や体重を考慮し、栄養バランスの取れた食事を提供している。入居者の状態を見て、好きな食べ物をお出ししたり、栄養補助食品やとろみ剤を使用したりと、適切な経口摂取ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は夕食後、洗浄・消毒を行っている。また残存歯がある入居者の歯みがきを介助するなど清潔の保持に努めている。歯科医が往診し、口腔ケアや治療も行うこともある。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の頻度や特徴を記録し、失禁の原因を探り、定時のトイレ誘導などの対応をしている。また体力的な負担や皮膚の状態といった様々な観点で、常に介助方法を見直すようにしている。	排泄記録により排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行いトイレでの自立した排泄支援介助を行っている。リハビリパンツやパット、布パンツの使用によりオムツ使用者はいない。夜間のみポータブル使用の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者には十分な水分補給や適度な運動を促し、状況を見て乳酸菌飲料をお出しすることもある。また医師に相談し漢方薬を内服するなど出来るだけ自然な排便が出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全に配慮しながらも好みの温度や入浴時間などそれぞれの入居者に適した支援を心がけている。ときには入浴剤を使用したり、ゆず湯にしたりと少しでも気持ちや和らぐよう工夫している。	週3回入浴できるように好みの温度で入浴時間など各々に合わせて支援をしている。入浴剤を使用したり季節のゆず湯にして気持ち良く入浴できるように工夫している。入浴拒否の方にはポジティブに声掛けをしながら入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるよう日中レクリエーションなどで活動する時間をつくるようにしている。また体調や前の晩の様子を見て、適度な昼寝を促すなど状態に合わせて臨機応変に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在内服している薬の説明書をファイルし、すぐに確認できるようにしている。薬が新しく処方されたときには特に異変がないか、用法は適切か注意して見るようにしている。また、その旨を伝帳に記入し、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の状態を見て無理のない程度にその方が得意とすることを手伝っていただいたり、興味があることがあればそのための支援をしたりと達成感や充実感を味わえるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良い日には予定を変更し、ドライブに出かけたり、近所を散歩したりと柔軟な対応をしている。また要望に応じて個別に買い物に行くなどできる限りの支援を行っている。	天気の良い日には散歩をしたり、ドライブに月1回は出かけたりにしている。希望で個別の買い物に行くなど外出できるように支援している。季節の花見やイルミネーションを見たり、外食など外出支援を行っていたがコロナ禍で難しくなっている。	

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が家族よりお小遣いという形でお金を預かり管理しているが、希望により家族の了承のもと少額を自分で持っているという方もいる。ときには買い物で好きな物を選び支払いをする機会もつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族や知人に電話がかけられるようにしている。また携帯電話を使用されている方もいる。さらに家族に年賀状を書いていただくなど面会とは違うやり取りもできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから中庭が望め、四季折々の花を楽しむことができる。また掲示物や装飾品などを季節によって変え、快適な空間となるよう努めている。	ホール内はエアコンを使用し室温湿度に気を付けている。日差しが強い窓辺には、よしづを立てかけて日差しを遮ったり、個室やトイレのドアを開けて換気や温度差に配慮して快適に過ごせるように工夫している。玄関壁面には外出した写真が掲示され、中庭は草花が咲き誇り季節を感じるができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルのイスの他にテレビ前にあるソファでゆったりとくつろげるようになっている。新聞や雑誌を用意し、ひとりの時間を過ごせたり、入居者同士が自由に会話ができるよう時間をつくったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や洗面道具などこだわりがある方もいるためできるだけ慣れた物が使えるようにしている。また家族の写真や思い出の品を飾ったり、書き物をするテーブルを置いたり心安らぐ空間となるようにしている。	ベット、洗面台、エアコン、カーテンは備え付けてある。布団やカバー類、テーブル、椅子、衣装棚など慣れたものを持ち込み使用している。また、写真や思い出の物を飾ったり仏壇を置いたり本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい絵や色づかいでトイレや浴室のドアに表示し、間違わないように工夫している。廊下や居室につまずく恐れのある物を置かないようにしたり、劣化した家具で思わぬケガがないようにしたりと配慮している。		